潤滑油専業メーカー 転嫁に悲鳴

2021年 ベースオイル40円値上がり

グループⅢ・添加剤 需給ひっ迫続く

潤滑油製品の基になるベースオイルの価格上昇が止まらない。長引く原油高騰を受け、全国石油工業協同組合の共同購入物は２０２１年１～３月分以降、４四半期連続で値上がりし、累計上げ幅はトリル40円前後にのぼる。潤滑油専業メーカー間には２０２２年も「年初から数円では収まらない上げ」予想が飛び交う。グループⅢは新型コロナウイルス禍によるアジア市場での需給ひっ迫が継続。調達への影響が解消されない市場環境下、さらに値を上げている。第３次となる添加剤メーカーの価格引き上げも懸案。専業メーカーは需要回復途上で相次ぐコスト増に見舞われ、製品価格への転嫁に追いまくられている。

全石工が組合員企業向けに大手元売から調達、販売する共同購入物の価格は四半期ごとに改定される。高止まりする原油動向を反映し、10～12月分はグループⅠが前期比９円30銭、環境対応型エンジン油などの製造に使うグループⅢは５円60銭値上がりした。

１～３月分から４四半期連続の上昇で累計上げ幅はグループⅠが44円80銭、グループⅢは38円60銭におよぶ。２０２０年は７月以降大幅に下落。２四半期分合計でグループⅠは40円超、グループⅢは30円近く値下がりしたが、このコスト低下分が消し飛んだ。とくにグループⅢでは差し引き10円以上の大幅なコスト増になっている。

原油価格は10月入り後、指標原油のひとつであるブレントが一時バリ80ドルを超すなど、高水準で推移していることを主因に、来年１～３月分の価格改定も「数円ではすまない値上がりになりそうだ」（潤滑油業界筋）。

航空機用燃料の需要消失など、コロナ禍による燃料油バランスの変化でシンガポールの製油所では稼働率が低下していたが、若干持ち直しグループⅠやグループⅡのアジア市況は下げ傾向。一方で韓国産に依存しているグループⅢでは需給ひっ迫が継続。アジア市況は北米や欧州の旺盛な需要を受け、一段と上がったという。

米系主要メーカーによる添加剤の値上げも続いている。基材供給の停止を引き起こした２月の北米寒波の影響が長期化し、価格上昇を招いている。専業メーカーでは「原材料の供給不安がコスト増につながっている」と指摘。製品供給や収益への影響に懸念を示す。

国内ではＥＮＥＯＳが、２０２２年10月をめどに根岸製油所（横浜市磯子区）の第１常圧蒸留装置と、系列の減圧蒸留装置や潤滑油製造装置を廃止する。１年後には年間27万㌔のベースオイル生産能力が失われるため、今後の供給に対する関心が高まっている。

ベースオイルや添加剤に加え、鋼材価格の値上がりにともなうドラム缶などの容器代、物流経費も軒並み上昇しているが「需要家も（潤滑油の）安定供給優先に傾いてきている」（首都圏の専業メーカー）として、取引先に理解を求め製品納入価格へのコスト転嫁に全力で臨む考えだ。

ウメモト インフォメーション

２０21年　10　月　12　日　　担当　小松

原油価格1.5%高、数年ぶり高値　世界的な原油需要の回復で

［ベンガルール　１１日　ロイター］ - 米国時間の原油先物は数年ぶりの高値を付けた。中国など主要国での電力・ガス不足を背景とする世界的な原油需要の回復を受けた。

清算値は、北海ブレント原油先物が１．２６ドル（１．５％）高の１バレル＝８３．６５ドル。一時８４．６０ドルと２０１８年１０月以来の高値となった。

米ＷＴＩ原油先物は１．１７ドル（１．５％）高の８０．５２ドル。一時は２０１４年以来となる８２．１８ドルを付けた。

米ホワイトハウスは産油国に対する一段の対応要請を支持する立場を表明した。政府高官が１１日述べた。

ウメモト インフォメーション

２０21年　10　月　13　日　　担当　小松

原油先物は4日ぶり反落、エネルギー需給逼迫受けた上昇一服

［東京　１２日　ロイター］ - アジア時間の原油先物は４営業日ぶりに反落。アナリストは、世界的な需要回復を受けたここ数週間の上昇が一服したと指摘した。

０２１１ＧＭＴ（日本時間午前１１時１１分）時点で、北海ブレント先物は０．２６ドル（０．３％）安の１バレル＝８３．３９ドル。１１日には１．５％上昇し、一時３年ぶり高値を付けていた。

米原油先物は０．３３ドル（０．４％）安の８０．１９ドル。こちらも前日は１．５％高で、約７年ぶりの高値を付ける場面もあった。

ＯＡＮＤＡのシニア市場アナリスト、クレイグ・アーラム氏は「原油高には依然として十分なモメンタムがあり、ファンダメンタルズ（基礎的条件）は引き続き極めて良好だ」と指摘。年内に原油価格が再び３桁に上昇しても、おそらく意外ではないとの見方を示した。

アジアや欧米のエネルギー供給不足により、ここ数週間に電力価格が記録的水準に上昇。天然ガスの高騰を受け、発電燃料を石油に切り替える動きも出ている。

アナリストは、発電燃料の切り替えによって原油需要が日量２５万―７５万バレル押し上げられる可能性があると試算している。

世界最大の液化天然ガス（ＬＮＧ）生産国であるカタールは１１日、ＬＮＧ供給に関し「われわれは限界に達している」とし、エネルギー価格の高騰を沈静化するのになすすべがないと述べた。また、全ての消費国にＬＮＧを適切に供給しているとした。

ウメモト インフォメーション

２０21年　10　月　13　日　　担当　小松

米油、12月分から30円以上値上げ ボーソー油脂

ボーソー油脂は12月納品分から家庭用や加工用の米油価格を1キロ当たり30円以上引き上げると発表した。値上げは今年3回目。原料調達コストの上昇分を転嫁する。米白絞め油の国内価格は現在、年初比2割高の1キロ289.5円前後と最高値圏にある。値上がりが続けば、菓子メーカーや消費者などの負担感は一段と増す。

米油は玄米を精米した際に出る米ぬかの油分を抽出した食用油。原料は国内で集めた米ぬかのほか、輸入した精製前の米油がある。

国内ではコメ消費量の落ち込みで米ぬかの発生量も減り、集荷コストが上昇している。輸入する原料油も、主力のブラジル産が海上コンテナの不足で品薄気味だ。世界的な食用油の需要拡大もあり、調達価格が上昇しているという。

米油を巡っては、築野食品工業（和歌山県かつらぎ町）も、12月納入分から1キロ30円以上の値上げを表明している。

引用記事　**日経新聞**　**ロイター**

ウメモト　インフォメーション

２０21年　10　月　12　日　　担当　小松

橋梁メーカー各社
鋼材価格高騰で対応に奔走／設計変更を要請、生産効率向上も

橋梁メーカー各社が上昇基調にある鋼材価格の対応に奔走している。急激な値上げを予想し鋼材メーカーに理解を求めながら、価格上昇分を請負金額に反映してもらうよう、発注者に設計変更などを要望。生産効率を高めて鋼材の歩留まり率を改善したり、使用する鋼材の種類を減らしたりしてコスト抑制に対応している。経営資源やノウハウを生かし、利益の確実な確保につなげようとしている。

鋼材価格は鉄くずや鉄鉱石といった原料、加工と輸送コストなどが値上がりに影響する。価格は今年１月ごろから上昇傾向にあるという。業界関係者は、新型コロナウイルスの影響で低調だった景気が欧米などで回復基調にあり、鉄鋼需要も増加したと分析。脱炭素社会の実現を見据え、加工を行う高炉の操業停止が価格上昇に追い打ちを掛けているようだ。

建設物価調査会が９月に公表した「主要資材動向（東京）」によると、Ｈ形鋼は１トン当たり１０万２０００円と試算。２００８年以来の高水準に達した。５カ月連続で上昇している中、調査会は「鋼材メーカー各社が価格優先の販売姿勢を崩していない。流通筋も採算確保に向けて値上げ交渉を継続する」と先を読む。

鋼材価格の高騰を受け、橋梁メーカー各社は業績への影響を最小限に抑える取り組みに腐心している。ＩＨＩは「鋼材値上げ交渉に応じてもらう」よう発注機関に要請。鋼材メーカーにも価格上昇を可能な限り抑えるよう訴える構え。

物価スライド方式を採用しているＪＦＥエンジニアリングも「鋼材価格の見通しを加味した積算」を行いつつ、「発注者に設計変更を依頼」するという。横河ブリッジは「急激な値上げに対応できないため、段階的な値上げを要請中」とコメント。鋼材メーカーの対応を注視している。

発注機関への協力要請と並行して自社の経営努力も怠らない。各社が前工程の段階で必要分だけ資材を調達する「ジャスト・イン・タイム」の発注を継続し、コスト削減に努める。ＩＨＩやＪＦＥエンジは、同種鋼材の使用や鋼板数を減らして価格上昇に伴う影響を最小限に抑える方針だ。

鋼材価格の引き上げを受け、日本橋梁建設協会（橋建協、高田和彦会長）は日本鉄鋼連盟（橋本英二会長）から情報を収集。意見交換を通じて「対応方針を固める」考えを表明している。

引用記事　　日経新聞　　日刊建設工業　　化学工業日報　　燃料油脂新聞